

センサー

1986年 9月号 第16号

東京温度検出端工業会 会報

核戦争に備えたシェルター

会 長 二 宮 三 郎

昭和60年の日本人が個人で貯蓄した金が500兆円もあると聞いた、これは日本人の持つ自助意識と将来に対する考えから質素にして他人に頼らず自らの責任で恥かしくない生き方をしようとする現れでしょう。又子供の教育や将来の為など親として努力した結果による涙ぐましい金も含まれていると思う。

そうした親の心に反して死ぬことを急ぐ、勤労を嫌いカッコよく生きたい、遊ぶ金はほしい、責任や恥や質素と言う意識は薄い、罪悪感が少ない、生命の有り難いこと貴いこと、生きることの大切さなどまるで解らないような新人類も増えてきた、不倫も流行のようになり個人の噂話しがワイドショーとして放映され、芸能界の常識にないアイドル歌手などをつくり毎日のように騒いでいる。

日本とはほんとに平和な国だと思う。1983年秋、西ドイツでの用件を終わり、コペンハーゲンに渡りデンマーク国民の絶対多数の人が、核戦争は必ずあると信じるという調査の結果が報告されていた、又核戦争は必ずあると信じる国としてデンマーク、トルコ、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、ベルギー、オーストリア、イタリア、スイス、西ドイツ、中国、アメリカなどが記されていた。核戦争から生命を守り生き残る為には、核シェルターが必要、これらの国では核シェルターが建設されていると記してあった。

私の知る限りでは、スウェーデンには全人口の8割を収容できる程の核シェルターが設備されている。ノルウェーやスイスには昔から地下室があり、近年はそのほかに人々の集まる所には2千人も入るようなシェルターが設備されている。アメリカでも最近シェルターの建設が盛んになった。中国でも都市には大きな地下室が設備されていて非常時にはいつでも使用できるようになっている。1986年4月ソビエト原子力発電所の事故により北欧の国々は生命を守る責任から核シェルターの建設に一層の力を入れているでしょう。

日本のように非核三原則があるとか、核持ち込み禁止や反対をどれほど叫び、戦争を放棄した平和憲法を持つ国だ、日本人は平和を好むと叫んでも、現実には隣国でしかも大国が核兵器を大量に保有し北方の我が領土さえ占有して核兵器を配備している。核兵器を装備した艦船や原子力潜水艦は日本海を毎日のように航行している。核弾頭を装備したミサイルは日本の領土に多数向けられている事実は世界で知らない国はない、アメリカ艦船の日本寄港だけを騒いでも核の防止にはならない、アメリカとは話し合いができて政治の体制の違うソビエトとは難しい、ましてや近隣の国を自らの衛星国としている国、その指導者が核のボタンを押したらどうなるか日本人の半数は死滅するだろう、日本はスパイ防止法のない国でありスパイ天国と呼ばれ、ソビエトのスパイだけでも2千人もいるという、そんな日本でアメリカの事前協議などしているとその頭の上に核弾丸は落ちてくるであろうという。西ドイツの青年は、日本人は形式や書式が整うことで満足しているが、戦争に形式も道義もない、言葉より力だ、平和を守り国民を守る為にはどこの国でも金が要る、金もかけずに言葉だけで平和も国民も守れない、独立国ならまず守るようにするべきだ、日本と違い陸地を接して国境を持ちその相手国が核保有国である、我らはとても日本人のような考えでは生きられない、社会主義権力を守り主義の拡大の為には自国民の締め付けだけではなく、南アメリカの国からエチオピア、ソマリア、コンゴウ、イエーメン、アフガニスタン、ベトナム、カンボジア、北朝鮮、東ドイツ等に深く干渉している現実を見れば誰でも理解できることだ、確かに自由や平和は貴いけれども国際社会の約束も国と国との条約さえも一方的にホゴにして平気な核保有国もあり日本国はソビエトとの不可侵条約を破られ先制攻撃を掛けられて多数の補虜、物質の略奪、婦女子の強姦や殺傷等その非惨と損害は言語に尽くせないその経済さえ忘れて語ろうともしない、口を開けば国際社会の理解を連帯をというが、相手国の文化、民族政治体制かやら慣習を尊重してこそ連帯できる、秘密主義の国との連帯は難しい、世界の6分の1という領土を有し常に隣国を押さえつけて南進政策を取る、核保有国が近くにある限り核シェルターを設備し国民を守るのは政治の義務ではないか、西ドイツの人々は皆第2次大戦による悲惨と苦痛は忘れる事はできない、核戦争ともなれば人類の滅亡となりかねない、ソビエトでは核の研究開発の為に事故死をした者はすでに8千人に及ぶという情報もあるが一切は秘密の内で研究開発と保有増加を続け、どんな事でも理由を付けて外交の交渉に使うのがソビエトの伝統だから心は許せない、第2次大戦では中立を守ったベルギーは口実をつけて侵入してきたソビエト軍隊により住民の多数が死傷した経験から政府として国民を守らねばならん、その為に軍隊と核シェルターの必要があるとして建設に力を入れている、特にソビエトは核事故は知らさない、弁償も謝罪もしないから予知能力の増強とシェルターにより国民を守る以外にない、

ベルギーは民族がフランス系と北方系の民族があり、民族感情も伝統的に分かれている、そこへ絶えずソビエトがつけいり扇動するから神経質になっている。

日本は島国だ日本海があると安心はできない、今は核爆弾も小型になり人が持ち運べるし時限装置も付いていると聞く、世界にはどんな兵器でも売買する死の商人もいるところに居ると聞く。

核兵器の恐ろしさは日本人が世界中で一番よく知っている、特に後に残る放射能による障害は長く計り知れない苦痛を子孫にまで及ぼす、核の廃絶は当然で研究もやるべきではない。人命は地球より重いと極悪犯人に国民の税金15億円もつけてリビアへ逃がした日本に黄門とかいう元首相がいた、自分の国からテロを追い出せばよい日本人だけ助ければよいでは国際社会では生きられない。テロ集団により大使館員全部を人質にして日米安保条約の破棄を要求されないという保証はどこにもない、日本国民が核兵器で脅されたら逃げるところは核シェルターより外にないが現在国民の為の核防御施設は一つもない、経済大国とは鷹揚なものだ国民の為の政治を忘れて米の買い入れ価額には徹夜もする。生産者以外は国民にあらずとでというような態度の国会議員、消費者を度外視した政治を続けて国が栄えた例えはない、まして今内需拡大を求められている時代に無理を通して道理を押さえて政治家は筋を通すという、国民はそれほど幼稚ではない、勤勉な国民の貯蓄が500兆円もあるならその金を政府が借りて国民の生命を守る為に核シェルターを全国に建設したらどうか、備えあれば憂いなしというのではないか、減反補助金を削っただけでも核シェルターは幾つもできて内需拡大にもなる国民も又安心できる、ソビエトの原子力発電事故の放射能が日本各地で検出された、風向きの関係で少なかったこの度の放射能は、だがいつもこうとは限らない、いつ事故は発生するか判らないからだ。

技術講演会に 出席して

林電工(株) 開発部 倉元 和憲

さる7月23日、東京は、五反田駅前の東興ホテルにて、東京温度検出端工業会主催の技術講演会があり、弊社からは、私を含めて3人が、出席させていただきました。演題は、「熱電対の実践的使用方法」、講師は、新栄熱計装(株)、代表取締役社長、杉本嘉正氏でした。今回の杉本氏の講演の内容は、今までの講師の方々の講演とは、趣きを異にしており、演題に、実践的とあるように、学術的というよりは、むしろ、杉本氏の長年の経験に基づいた御経験談であったと思います。

例えば、戦前、電気式温度計は、貴重品であり、可動コイル型の計器とセットで1本地方に納品に行くと、かなりの金額になり、それで十分商売ができたとか、戦後、米軍よりP4の保護管を、トラック一台分、払い下げてもらい、これが戦後の御商売のきっかけになった旨のお話もありま

した。この様なお話しを通じて、戦争前後の工業会の様子の一端が、私たち若い者にも、興味深く、理解できたように思います。

また昔のよい思い出だけでなく、日本の炉（重油炉）の使用雰囲気（イオウ分が多い）にもよるのでしょうが、K熱電対素線の断線では、保償の問題もからみ御苦労されたようです。その原因の究明に、意欲を燃され、保護管の材質、先端の封じ方等工夫された旨うかがいました。K熱電対の断線については、近年、K熱電対の替りとしてよく話題になるN型熱電対において期待をよせられているようでした。

戦後の日本の復興を、影で支えたのは、日本の熱処理業会であったとお話しもありました。現在の日本製品の品質の高さはだれも認めるところですが、これら製品を構成する部品が、熱処理され、品質の高いものであるからこそ日本の製品の品質の高さが、維持されている一面が、ある事を考えると、氏のお考えも、的をえているものも思います。

戦後の日本の高度成長期には、これを支えた熱処理業会も急速に、その規模を増し熱電対の使用量も急速にのびましたが、一方熱電対の単価は、昔も今もさして差がなく、薄利多売の傾向が強いことは残念なことです。この事は、業会の良識ある方々が常におっしゃっておられることで工業会のいっそうの努力と、お客様のセンサーに対する正しい認識が望まれるものです。

今回の杉本氏の講演を通じ、K熱電対の断線クレームに対する氏の取り組み方等、現在でも同様な問題が起きたときの参考になるものでした。また杉本氏の人柄にもよるのでしょうが工業会の事を広い心でみておられるとの印象を強くもちました。

最後に杉本氏はじめ、工業会の世話役の方々に御礼を申し上げ終りにいたします。

以 上

会 社 紹 介

会社創立 昭和33年12月

代表取締役社長 丹下能光

本社工場 神奈川県平塚市東八幡5丁目1番8号

電話 0463-21-7343

資本金 270,000,000

従業員数 160名

昭和33年に創立され1年半ほど後からは溶解から伸線まで一貫生産の設備を完成し、現在にいたっております。

生産品目としましては、我々業界に最も関係の深い熱電対素線、補償導線があります。特にK熱電対は国産としてはほとんど随一のメーカーとして頑張っておられます。他の製品としては集団回路等のリード線として使用されるアルミニウムの極細線、航空機や自動車の内熱機関に使用される点火栓用のニッケル線、磁器ヘッド材料、またチタン線は0.1mmまで細いものまで製造できるということです。

我々はあまり知らなかったのですが、メガネフレーム材料も生産しており、さらに最近のヒット品として形状記憶合金があります。この会報にも技術情報として掲載したことがありますが、我々素人が考えても何となく応い用途がありそうで興味があるものですが、女性用下着に使われるなど思いがけない用途がみつかってきているようです。

以上のようにエレクトロニクス通信、計測、及びプラント等に使用される金属材料、部品の専門メーカーとして「よりよい品質の製品を作る」をモットーに一層の発展を期しておられます。

会員消息

今回は転勤、退任、会社の移転等が多かったものですから、まとめて報告致します。(敬称略)

1. 市村金属(株) 本会担当者変更、営業部長 市村司
2. 石福金属興業(株) 本会担当者変更、産業化学品営業部部长 池島由浩
3. 相互電機(株) 本社移転、61年9月1日より
〒226 横浜市緑区佐江戸町186
電話 045-934-6554 FAX 045-934-6559
4. 田中貴金属工業(株) 本会担当者変更、営業部、第四セクション 森喜代三
5. (株)奈良電機研究所、営業所移転
住所 目黒区中目黒1-11-11 電話、FAXは変更なし
6. (株)西林電機製作所 本社移転 60年12月5日より
〒458 名古屋市緑区浦里3-36
電話 052-895-5901 FAX 052-895-5905
7. 二宮電線工業(株)
就任(60年10月)会長 二宮三郎(本会、会長)
社長 二宮恒夫
本会担当者 鷹見三佐夫
8. 日本合金製造(株) 就任(61年6月)社長 矢野卓
顧問 加藤仲司(本会担当者)
9. 日本サーモウエル(株) 就任(61年4月)社長 木村祥司
本会担当者変更 宮坂隆三
10. 日本特殊陶業(株) 本会担当者変更 東京営業所 営業二課 課長 寺田孝司
11. (株)八光電機製作所 就任(61年8月)社長 坂井良一
本会担当者変更 東京営業所 高原和良
12. 古河特殊金属工業(株) 本会担当者変更 本社総務部長 市野瀬義明
13. 明陽電機(株) 本会担当者変更 東京営業所 所長代理 林 勝正

以上

第15回けんたん会報告

懇親ゴルフコンペも15回を数えるようになりました。ほぼ年2回のペースで開催しておりますので、もう始めから8年になるわけで早いものだと思います。

今回は4月25日、武蔵カントリー倶楽部豊岡コースで10名の参加を得て行いました。この周辺は車での交通事情がきびしく、以前に開いた2回とも時間通りに集合できず苦労したのですが、今回は皆さん時間通りに集まることが出来、順調なスタートをすることができました。

新しく日本熱電機製作所の田中さんの参加も得ましたが、何よりうれしかったのは、市村金属(株)の社長さん、市村さんの参加を得たことでした。永らく、病氣療養中でしたが、ゴルフを出来るま

で健康を回復され本当にうれしそうでした。御本人の言葉ではスコアには関係なく、ゴルフが出来るだけで幸せですということでしたが、どうしてスコアの方も以前と変わらないようでした。今後も、健康に注意されて参加し続けてほしいと心から思います。

入賞者の成績

1位	林 正 樹、林 電 工 (株)	グロス	97	ネット	83
2位	森高 新三郎、日本合金製造(株)	"	108	"	84
3位	谷口 昌男、東洋熱科学(株)	"	94	"	84

今回は期せずして入賞者は社長さんばかりでした。なお、今回も含めてこの武蔵カントリーを紹介していただきました、森高さんが日本合金製造(株)の社長を退任されました。ありがとうございました。

会の動き

- ◎昭和61年1月29日通産省計量行政室にて、第一回計量、計測機器の海外見本市検討会に出席（事務局）
- ◎1月31日新春懇親会、新宿野村ビル「酔鯨亭」にて、参加来賓4名会員28名
- ◎同日会報「センサー」、15号発行
- ◎4月10日技術講演会「熱流計測について」講師 昭和電工(株)総合技術研究所 主席研究員 黒岩 貞雄氏 参加27名
- ◎4月25日第15回懇親ゴルフ大会、武蔵カントリークラブにて、参加10名
- ◎5月7日業態調査アンケート配布
- ◎5月23日第13回定時総会及懇親会、霞が関東海倶楽部に、参加来賓1名会員22名
- ◎6月12日第12回技術懇談会、都立工業技術センターにて、参加17名
- ◎7月14日通産省計量行政室関連団体報告書提出
- ◎7月23日技術講演会「熱電対の実践的使用方法」講師 新栄熱計装(株)社長 杉本嘉正氏 参加20名

理 事 会

昭和61年1月31日定例

- ◎通産省計量行政室主催の海外における計量計測機器見本市について、工業会として出展はしない、会員の自由出展とする。
- ◎4月技術講演会について
- ◎5月定時総会について

昭和61年4月10日定例

- ◎第13回定時総会提出議案の審議

昭和61年6月6日定例

◎7月技術講演会について

◎9月～62年3月までの各事業について担当役員を決定

昭和61年8月8日定例

◎会報「センサー」15号発行について

◎9月工場見学会について

電気計測器生産実績 (通商産業省機械統計月報による)

(%は金額の対前年同月(期)比)

品 目 名		61 年 4 月			61年1月～4月			
		数量(台)	金額(百万円)	(%)	金額(百万円)	(%)		
電 気 計 測 器	工業用 プロセス用	発信器	温度計	28,220	517	93.7	1,832	91.8
			圧力計	8,022	1,136	134.9	3,756	113.0
			液位計	1,343	283	84.2	1,412	98.7
			流量計	6,773	1,423	82.3	7,389	88.9
			その他	5,530	658	105.3	3,973	146.3
		(小計)	4,017	98.4	18,361	103.3	
	工業計器	※受信計	指示・記録計	14,432	1,824	94.2	7,590	96.6
			調節計	33,419	1,921	99.3	8,330	96.2
			補助機器	13,459	844	82.7	4,246	89.8
			(小計)	4,589	93.8	20,166	94.9
		操作器	4,780	890	179.8	3,356	175.5	
		プロセス用分析計	868	364	106.4	1,947	110.7	
		プロセス監視制御システム	3,870	4,126	113.4	23,205	111.1	
		その他の工業計器	6,948	116.4	27,455	114.9	
		③ (小計)	20,934	107.8	94,488	108.0	

編集後記

センサー16号を発行します。日本全体もかってない不況にみまわれております。これからも、我々の業界への影響は避けられず、苦しい対応をせまられることと思います。

こんな時こそ、工業会を通してつちかかってきたルートを生かしてお互いに仕事に役立てられたなと思います。

お互いこの見通しの見えにくい量気の中ですが、せいっぱい頑張りましょう。

昭和61年9月発行 No.16

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都品川区西五反田1-13-11(西村ビル)

電話 494-0671